

「音の形、音の色」 【表現・鑑賞】(4時間)

授業者：市川洋二

1 本校の図画工作科で目指す「価値」

【学 び】

生活のなかにも表現につながる様々な形や色、イメージがあることに気付くこと

【役 立 ち】

生活や社会の中の形や色などと豊かに関わること

【喜 び】

イメージを広げ、つくりたいものを具体化すること

2 本単元の社会的背景(現状と課題)

現行の図画工作科学習指導要領¹では、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」の育成について示されている。また、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」として、図画工作科の学習活動を通して、子供自ら学びの意味を見出し、自分にとって新しい価値を創造することによって、学んだことが日常生活の中でも生きてくるといふ実感を持つことができるような指導の改善・充実が一層重視されている。

芸術ワーキンググループ(H28中教審)ⁱⁱにおいても、現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直しが必要として、思考力・判断力・表現力等を育成する観点から、自分の価値意識を持って話し合ったり、批評し合ったりする学習活動を通して見方や感じ方を深めるなど、他者への働きかけや他者からの働きかけによる協働的な学びを授業改善の方針として位置付けている。

吹氣(2017)ⁱⁱⁱは「思いのままに」「見えている通りに描かなくてもよい」という指導が支援的指導にはならないと指摘し、写実的な表現欲求と自己の表現力のギャップを感じている高学年の描画指導では、模倣という行為が「対象の良さや美しさを受容的に感じ取る鑑賞の眼差し」と自己表現のための「対象に近づいて観る追究的な眼差し」をつくる鑑賞と表現が一体化した有効な指導法であり、子供たち一人一人の感性の働きによる共感的・追究的な気付きと創造的な試行や表現を育む活動としている。また、模倣活動において獲得した主題や表現技法に対する追究的な気付きを基に、目には見えない「音」を表現するという行為の意味付けを促すことを指摘している。

そこで、本実践では単元の導入に設定した参考作品を模倣することを通じて、自分や友達への表現のよさや美しさに対する見方や感じ方の広がり、創造性や感性を育むことができると考えた。

さらに、石垣(2017)^{iv}は、身の回りのどこにあるのかを探す目が「空間に対する美的な発見の価値」へとつながることを指摘している。本実践においては、模倣する学習経験を積み重ねることによって、他者や環境との関わりをより強く意識し、学んだことが「空間に対する美的な発見の価値」につながると考えた。また、社会と自分との関係性を実感しながら、学んだことの価値を自分の生活や将来にどう生かしていくかについて考え始めることができるようになったと考えた。

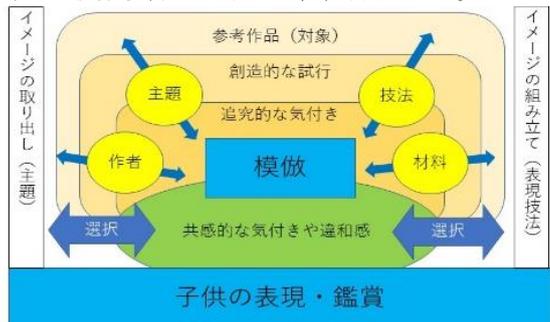


図1 本単元における研究仮説

「描画指導における模倣の価値(吹氣, 2017)」をもとに筆者作成

3 本単元で目指す「価値」

【学 び】

- 身近な環境や生活の中にある目に見えないもの(本単元では「音」を題材として扱います。)の中にも、よさや美しさを感じ取るきっかけとなる様々な形や色、イメージがあることに気付くこと。
- それらを絵に表す活動を通して、動き、バランス、色の鮮やかさなどの特徴を基に表したいことに合わせて表し方を工夫すること。

【役 立 ち】

- 身近な環境や生活の中にある音を表現する活動の意味や価値を実感すること
- この経験を通して、感性や想像力を働かせて対象や事象を形や色などの造形的な特徴を基に、ものごとをとらえる際の見方や感じ方の広がりや深まりを実感すること。

【喜 び】

- 自分の感覚とイメージを具体化する過程に学びの意味や価値を見出すこと
- 「音」など、見えないものの良さや美しさをなど、好奇心や感性から立ち上がる発見と創造を楽しむこと。

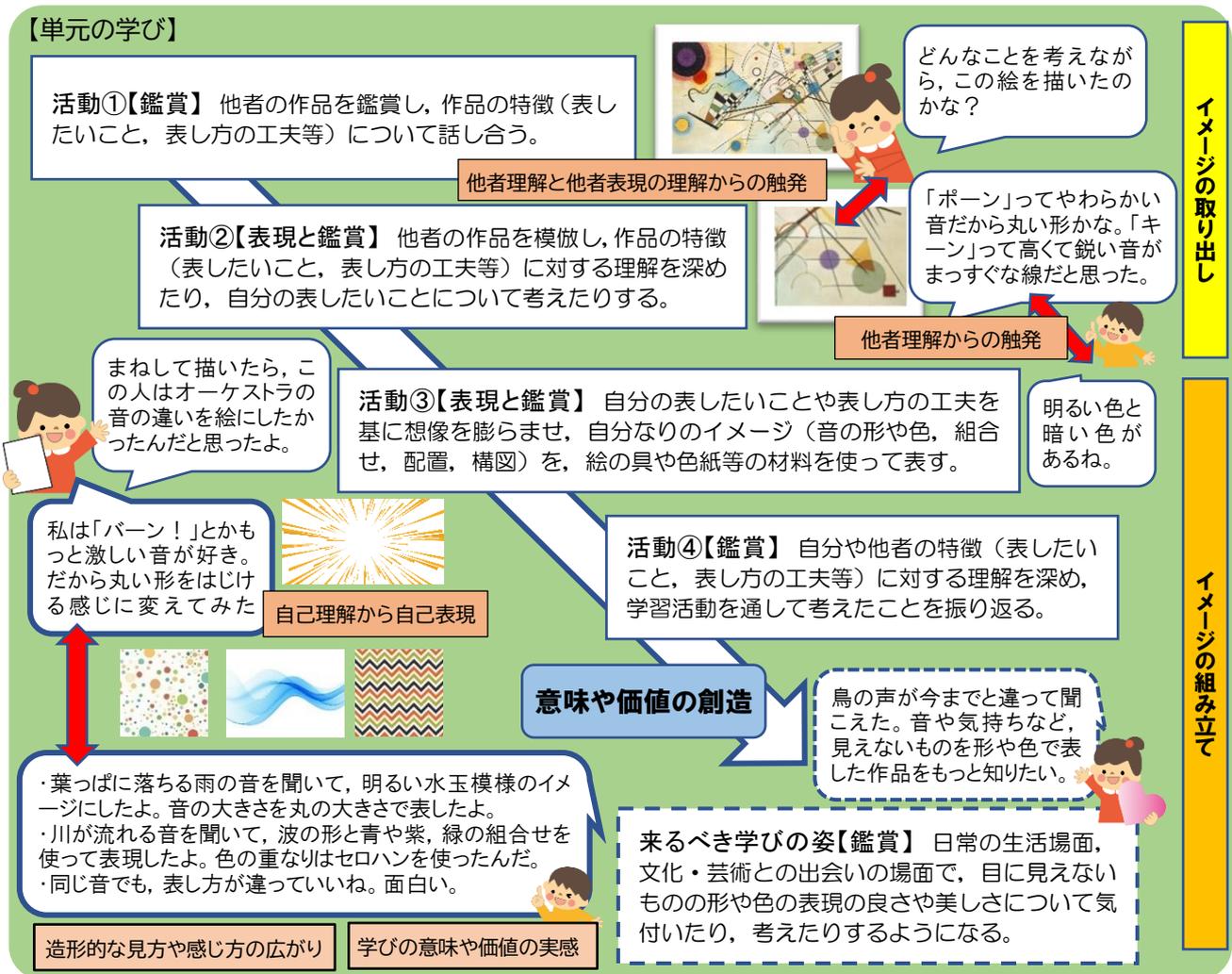
4 研究仮説

「模倣」する造形的な活動を通して他者の作品を鑑賞することで、「なぜ」「どうして」「どのようにすれば」といった追究的な気付きや創造的な試行が生まれ、他者の作品自体や制作過程にある意図に対する理解が深まり、だんだんと自己の表現したいことが浮かびあがってくる経験につながる。このような自らの表現主題に対するイメージの組み立て直しや、新たな表現活動の創造性が促進されることによって、表現活動の意味や価値の発見に至ると考えた。

研究
仮説

「模倣」する活動によって、創造的な表現と鑑賞活動が促進され、学びの意味と価値をつくりだす子供の育成につながる。

5 本単元のデザイン



6 本単元で価値をつくる子供の姿

身近な音のイメージを、形や色で想像を広げたり、絵に表したりすることを通して、生活の中にある身近なものやことの表現や鑑賞をより楽しく豊かなものに感じる子供。

7 本単元の評価規準と評価方法

【学 び】

表したいことに気付く力

身近な音を聞いて感じたことや想像したこと、動き、バランス、色の鮮やかさなど、自分なりのイメージをもって表したいことを見付け、どのように自分のテーマを表すかについて考えている。〔思考・判断・表現〕：表現・鑑賞 * 発言、記述

表し方を選ぶ力

身近な音を感じながら形や色、イメージを広げ、動き、バランス、色の鮮やかさなどを理解し、表したいことに応じて材料や用具を活用するとともに、表したいことに合わせて表し方を工夫している。〔知識・技能〕：表現・鑑賞 * 発言、記述

【役立ち】

造形的な見方や感じ方の広がりや深まりに対する気付き

模倣をヒントに身近な音のイメージを取り出し、組み立て直したりしながら、表したいことを絵に表現し、自分なりの造形的な見方や感じ方を深めている。〔思考・判断・表現〕：表現・鑑賞 * 発言、記述

【喜びにつながる態度】

意味や価値の実感

身近な音を感じながら形や色を思い浮かべ、イメージを広げて音を絵に表す活動の楽しさや、つくりだす喜びに気付き、主体的に取り組もうとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕：表現・鑑賞 * 発言、記述

注）*は評価方法、〔 〕は、現行学習指導要領における観点別学習状況の評価の観点

8 本単元の構成（全4時）

石橋・岡田（2004）は、他者の作品を模倣する行為によって、その作者の意図、制作過程の工夫、作品の造形的特徴（形、色、組合せ等）などに対する共感的な気付きと違和感が生まれ、他者の作品や自分の表したいことに対する理解が深まり、しだいに自己表現の起点が成り立っていくことを指摘している（図2）。

そこで、本実践で模倣による他者の作品経験（芸術作品及び友達の作品の鑑賞）を通して、題材に対するイメージを取り出す活動からイメージを組み立てる活動へと創作活動が発展的に展開する単元を構成した。

本単元では、「音」の形や色など、目には見えないものに、目に見える形と色を与える表現活動を中心としている。子供たちは他者の作品を模倣する経験の中で、具体化された「音」の形や色などの表現について、「よい」や「私も同じ」といった感覚が生まれる経験と、「私にとって、この形は少し違う」や「私だったら、もう少し明るい色を選ぶ」などズレや違和感を抱く経験をする。

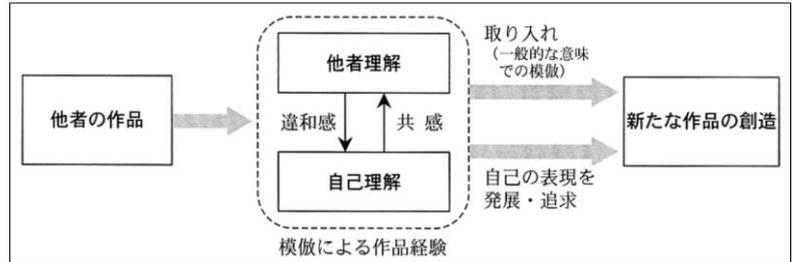
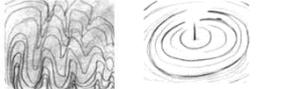


図2 創造のための「芸術作品の知覚」経験：模倣に焦点をあてて（石橋・岡田 2004）

このように、模倣による他者理解によって自発的に自己内イメージとの対比が引き起こされ、取り出したイメージを取捨選択した結果として、子供たちは自分が表現したいことや、自らの独自性に気付き、より主体的に自分なりのイメージを組み立て、絵に表す行為を楽しむことができるようになって考えた。石橋・岡田（2004）が指摘するとおり、「自分への気づきこそが、模倣活動に含まれる創造へとつながり」自分とは異なる他者による触発と模倣による他者の解釈は、新たな創造の原点となりえると考えた。このような実践を積み重ねることによって、子供たちは自分なりの造形的な見方や感じ方が広がっていくことの意味や価値をより深く理解できるようになると考えた。

時	○ 学習活動と価値をつくる子供の姿	★ 教師の関わり	評価
1	活動①【鑑賞】 ○ 「音」を基に描かれた作品を模倣する。  <small>※参考作品左から「コンポジションⅣ（カンディンスキー）」「木のリズム（クレー）」「AIによる音楽の視覚化（ステインブルグ）」「ブロードウェイのフギウギ（モンドリアン）」</small> ○ 「音」を基に描かれた作品を鑑賞し、基になった「音」について考えたり、作者の気持ちを想像したりする。	★ 模倣する活動に対する意欲をもてるよう、複数の参考作品を用意する。 ★ 模倣活動を通して、作品の特徴や作者について想像できるよう、着目する視点を示す。	模倣行為の経験 他者表現の理解からの触発 他者理解からの触発
2	「音の形、音の色」を絵にかこう！ 活動②【表現と鑑賞】 ○ 「音」クイズに取り組み、音の形や色に対するイメージを広げる。（雨音、掃除機などの生活音、環境音） ○ 身の周りにある「音」を聞き、アイデアスケッチする。  <small>※大学生、教員による作品例「音をかく活動の研究（初田、井上 2013）」</small> ○ 自分や友達のアイデアスケッチを鑑賞（作品の色や形などの造形的特徴、作者の思いなど）し、感じたことや考えたことを交流する。	★ イメージを膨らませながら自分の表したいことが見つけられるよう、アイデアスケッチをたくさんつくったり、友達の作品を鑑賞したりする環境を構成する。 ★ 「音」を絵に表す活動に対する意欲を高められるよう、感じたことや考えたことを交流する場を設定する。	他者表現の理解からの触発 他者表現の理解からの触発 表したいことを見出す
3	活動③【表現と鑑賞】 ○ アイデアスケッチをもとに、自分が絵に表したいと思った音のイメージの形や色に表し、動き、バランス、色の鮮やかさなど、自分のイメージに合った材料や道具を工夫して絵に表す。	★ 自分のイメージに合った表し方ができるよう、水彩絵の具やクレヨン、色紙など多様な材料や道具を使って表せる場を設定する。	自己理解
4	活動④【鑑賞】 ○ 造形的な視点（形、色、組合せ、材料など）を基に、お互いの作品を鑑賞し、感想を交流する。 ○ 学んだことを振り返り、学びの意味や価値について考える。  <small>※教科書の作品例「日本文教出版5・6下」</small>	★ 自分や友達の作品やそのイメージを比べ、理解を深めながら、自分なりの表したいことや表し方を見つけたり、振り返ったりできるような鑑賞の時間を設定する。 ★ 学んだことの意味や価値について考えたり、友達の思いに気付いたりできるような交流の時間を設ける。	自己理解 意味や価値の実感

9 本時 (1 ~ 2 / 4 時)

本時の目標

身近な音を聞いて形や色を思い浮かべ、造形的な特徴(動き, バランス, 色の鮮やかさ等)を捉えながら、自分なりのイメージに合う表し方を工夫して、絵に表そうとする。

【前単元まで】

- 墨で描かれた作品を鑑賞したり、模倣したりする活動を通して、作者や友達の考えを理解したり、自分の表したいことを見つめたりする経験を積み重ねる。

○ 学習活動や子供の姿

【評価】 ★教師の関わり

模倣行為の経験

1, 題材との出会い【鑑賞】

- 「音」や「音楽」をテーマにした参考作品の形や色に着目し、模倣をする。(鉛筆, ペン, 水彩絵の具, クレヨン, 色鉛筆等)

丸い形や真つぐな線とかいろいろな形が組合せてある。

明るい色や暗い色があるから、絵の具とクレヨンを使ってぬってみよう。

よくわからない絵だな。絵を描いた人はどんなことを考えていたのかな。

けっこううまくマネすることができたかも。でもここはちょっと違う風になったかな。

- 参考作品の形や色に着目し、動き, バランス, 色の鮮やかさなどの造形的な特徴と音との関連について話し合う。

これを描いた人はきっと音楽のリズムや音の感じを表したかったんだと思った。

明るい色は高い音で暗い色は多分低い音とかなんだと思った。

この部分は「ドーン」って太鼓のような音を表しているのかもしれないと思った。

私だったらこの部分をもっとはじける感じにしたらどうかなって思った。音を絵にするのってなんだかおもしろい!

「音の形, 音の色」を絵にかこう

2, 自分なりのイメージをもつ【鑑賞】

- 実際に様々な音(楽器, 生活音等)を聴き、形や色をイメージする。

「びよ〜ん」て感じに聞こえた。波線の形が自分のイメージに近い。だんだん小さい波になっていくほうがいいかな。

私も同じ波線。でも私の場合は音が広がっていく感じで、水色の波紋のイメージがいいと思った。

同じ音を聞いても人によっていろいろな表し方があるのがおもしろい。

音の表し方がいろいろな種類があっておもしろい。いろいろな音を絵に表してみたい!

3, 自分なりのイメージを表す【表現】

- 音を聴いて感じたことや想像した形や色を、音の特徴に合った動き, 配置, 色の組合せなどの造形的な特徴を考えながら、絵に表す。

「びよ〜ん」の感じを黄色の波線にしよう。だんだん小さい波になるように描いて、音の重なりを2つの波線で表そう。

作品例では中心からの広がり。でも私は水色の波紋が斜めに広がるイメージにしたい。

友達の作品を見たり、作品例をマネしたりしていたら、自分のやりたいことがだんだん思い浮かんできた。

音の組合せを、いろいろな形と色の組合せで表した。もっと描き方や材料を工夫したいと思った。

次時(3-4/4)

4, 表し方を工夫する

- 表したいことを色や形, 材料の特徴や構成の美しさなどの感じや動き, バランス, 色の鮮やかさなどの造形的な特徴について考え、自分のテーマに合った材料を選んで表現する。

5, 振り返る

- 自分や友達の作品を音と一緒に鑑賞し、音と造形的な特徴との関連や作品のよさについて話し合う。

★ 参考作品を複数用意し、模倣してみたい作品を子供自身が選ぶことができるようにする。

★ 形や色, 配置など, 参考作品の造形的な特徴を捉えながら, 作品の模倣ができるように声掛けをする。

★ 参考作品の作者や作者の意図を想像しながら模倣できるように, 形や色の特徴の理由について問いかける。

★ 友達の模倣する様子や模倣作品について鑑賞する時間を設定し, 鑑賞と表現の活動を一体的に行える環境を整える。

造形的な見方や感じ方の広がりや深まりに対する気づき【役立ち】

思い浮かべたことを基に、自分の表したいことを見付けようとしている。

★ 音に対する自分なりのイメージ(形や色, 配置等)をもつことができるよう, 作品例を示したり, 友達のイメージを理解したりする場を設定する。

★ 音に対する自分なりのイメージを具体的な形や色に表すことができるように, 音をオノマトペに置き換えて考えるよう促す。

★ 表したいことを見つめたり, 表し方を工夫できたりするように, 模倣作品や友達の作品と自分のイメージを比べながら, 形や色を考えるように促す。

★ 自分なりの表したいイメージにあった表し方の工夫(道具や材料等)の例を提案する。

表し方を選ぶ力【学び】

表したいことを表現するための工夫を考えている。

他者理解・他者表現の理解からの触発(イメージの取り出し)

表したいことを見出す(イメージの組み立て)

i 文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説図画工作編, 東洋館出版社。

ii 中央教育審議会(2017) 芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめ(H28)。

iii 吹氣弘高(2017) 小学校高学年の描画指導における模倣と創造力に関する一考察, 中村学園大学発達支援センター 研究紀要, 8, 89-95。

iv 石垣有加(2017) 描画指導における模倣と創造の相互関係について。

v 石橋・岡田(2004) 創造のための「芸術作品の知覚」経験: 模倣に焦点をあてて, *Cognitive Studies*, 11(1), 51-59。

ii
iii
iv